

牛久：学校周辺に見る自然

第51号 ひたち野うしく小（ひたち野西近隣公園）

2011年11月13日発行

＜ 秋の水辺公園、生きものたちの冬越し準備 ～1. 風で種子を運ぶ植物 ＞

朝晩、ずいぶんと冷えこむようになった11/8、ひたち野うしく小4年生と、水辺公園で秋の生きもの観察をしました。今回のテーマは、「生きものたちの冬越しの準備」。動物も植物も、寒く乾燥した冬を乗り越えるために、それぞれいろいろな準備を始めていましたね。まずはそれらの中から、植物たちの準備を紹介しましょう。植物の準備の一つに、種子をつくり広く散布することがあります。

種子のかたく厚い皮は、中で眠っている植物の赤ちゃん（「胚：はい」といいます）を寒さや乾燥から守るのですが、その種子を広くばらまき、自分の仲間を増やすことは、自ら動けない植物にとって大事なことなのです。この号ではまず、風によって種子が運ばれる植物たちを紹介します。



左は、水辺公園に行く途中に街路樹で植えられていたアキニレ。紅葉した枝と緑葉の枝とまじっていましたが、果実の皮がのびた翼をもち、熟すとふわふわとあるいはクルクル回りながら落ちてきて、風によって運ばれていきます。←落葉樹にしては**ぶ厚い葉のアキニレ（ニレ科）**。うちわのような果実は、風によって運ばれる。



続いてイヌシデ。これも翼をもっていますが、「果苞：かほう」という果実を包む葉が翼となります。果実が翼のつけ根についているので、校庭のイロハモミジと同じく、くるくると回りながら落ちます。そうやって落ちるまでの時間が長くなるので、風のあるときには、遠くまで運んでもらえるのですね。公園には、仲間のアカシデもあります。←**果苞が翼となるイヌシデ（カバノキ科）**。クルクル回りながら落ちる。



サワラの球果（きゅうか）も、だいぶ茶色っぽくなってきました。裸子植物なので正しくは「果実」と呼べませんが（中学で学習します）、その実の中には、小さな種子がたくさん入っています。種子にはその皮が伸びた広い翼がついていて、風によってひらひら飛んでいきます。翼をもち風に運ばれるといっても、翼のつき方はいろいろですね。←**種子の皮が伸びて翼となる、裸子植物のサワラ（ヒノキ科）**。



最後に、翼ではなく綿毛で風に運ばれる植物。秋でも花をつけるセイヨウタンポポと、まもなく、綿毛をつけた果実を飛ばすヒメガマです。ヒメガマのソーセージのような1本の穂には、10万～20万个の果実がつまっています、一つひとつは

羽毛よりも軽いそうです。どうりでよく飛ぶわけですね。【理科支援員 宮内】

←**ガクが変化して綿毛となるセイヨウタンポポ（左）と、花柄の毛が綿毛となるヒメガマ（右）**。